

質問事項	講師回答
<p>年間の事業の計画を立てて会員の皆様の興味を持ってもらうようにしていますが、役員になってほしい人を一人でも二人でも巻き込んでいく方法を教えて下さい。「自治会だより」を作成しています。</p>	<p>講座でもお伝えいたしましたが、まずは「役員（または何かしら役割）をやってもいいかも」と思える人（可能性のある人たち）を増やすことが大事だと思います。そのためには地道ではありますが、コミュニケーションの機会を増やす、顔の見える関係を広げていけるとよいかと思います。</p>
<p>自治会へ参加する意味が薄くなっている（入らなくてもデメリットが少ない）そのような状態で自治会の業務をやってくれとしても拒否される（退会含む）となる輪番制にしているが存続意味についてどう進めていけばよいか</p>	<p>極端な話になりますが、やらなくても良いことはなるべくやらずに済むように工夫し、それでも最後に残るべきこと（地域でつながる意味）を共有する必要があるのではないかと考えています。よく災害時のことが取り上げられますが、能登地震のふりかえりでも、地域で顔の見える関係がある、町会活動が一定あった地域は被害（二次被害）が少なかったという報告もあります。講座でもお伝えしましたが、互助を避けるということは、自助（個人で頑張る）か行政に頼る（限界が来ていますが）ということになります。</p>
<p>自治組織の高齢化問題の解決は、役割、組織の縮小、簡素、合理化しかないと思うデジタルデバイスの利用（ライン、メールなど）をうまく活用している事例があれば教えてください。（行政がそのようなプラットフォームを提供する手もある？）イベントやコミュニケーション e t c の重要さ効果性はよくわかりますが、高齢化に伴ってそれも無理になってくるかと思えます</p>	<p>おっしゃるとおり、人でなければできないことは少なくなっている（裏を返せばデジタルで省略できることが増えている）ので、これから10年と考えれば活用は必須かと思えます。松戸市では自治体でLINEを活用した掲示板（情報共有の仕組み）を活用しており、希望のあった自治体へ導入しています。</p>
<p>現在、当自治会は全戸数に対し加入率は75%程度 加入率を上げるため、役員にならなくてもいいという賛助会員という制度の導入を検討しています。（役員になりたくないという人が多いので）しかしながら、元自治会員（正会員）の中から賛助会員に抜ける人が多いと逆に役員のになり手が減るといことも心配されこの制度の導入に躊躇しています。何かいい事例アイデアがあれば教えてください。</p>	<p>賛助会員という形で、参加（関わり方）を多様にするという方法は住民をつなぎとめておく方法として、全般としてはとてもよい取り組みだと思えました。一方で、簡単なものがあると人はどうしてもそちらに流れてしまう傾向がありますので、ただ導入するだけではなく一定のルールを設けるのも一案かもしれません。（例えばですが、高齢に伴い役職を受けるのが難しいなど、または役員にはならずともその代わり年1回は何かしら催しやゴミ拾いに参加するなどを条件とする？）</p>
<p>巻き込む流れを設計するお話をお聞きして「なるほど」と思いました。しかし、現状は役員は輪番制で義務として継続しており、会長等の役割分担はくじで決めざるを得ない状況です。主体になるまでのstep upはふむことが出来ず「0」レベルからいきなり会長になっている状況です。コーディネーターが長期間存在すればうまく回っていくかなと思えました。この様なコーディネーターをアウトソーシングしている様な事例はありますか？</p>	<p>自治会の事例としては、お伝えした岩瀬自治会において、大学生にコーディネーター的役割を担ってもらっていた、という事例はあります。また行政の仕組みとしては、名古屋市で「コミュニティサポーター」という制度を導入しており、自治活動の相談を受けてサポートする人材を確保しています。</p>